福井の文化をきり拓く　Fukui Art Culture Forum

Fukui+art
FUKKart

ふっか～と
2012.9
Vol.39

「FUKKart（ふっか～と）」は福井市文化会館を拠点に活動するNPO法人福井芸術・文化フォーラム発行の文化誌です。

今年も開催！

ふくいの街は劇場だ！
ふくいの街は遊び場だ！

街遊びしよう まちげき 2012

2012年9月21日（金）～23日（日）
福井市中心市街地エリア一帯

（戦国の館２階／食堂＆ cafe CoCotte ／田川商店／えちぜん鉄道福井駅電車内／ＪＲ福井駅東口新幹線高架下／ＪＲ福井駅西口広場）

参加アーティスト

- **糸あやつり人形劇団みのむし**（糸あやつり人形芝居）
- **クラウンファミリー プレジャーB**（クラウン）
- **春風亭愛橋**（落語）
- **ソボブキエット**（音楽）
- **P．ことり座**（人形劇）
- **100　いまるまる**（ダンス）
- **雅抄会＆啓新高等学校日本音楽部**（和楽器）
- **K＆ピエロ**（音楽と手品）
- **劇団「幸齢者」**（演劇）
- **子どもいきいきプロジェクト**（工作ワークショップ）
- **相模友士郎**（ダンス）
- **しんくんシアター**（腹話術とパネルシアター）
- **縫原弘子**（ダンス）

福井芸術・文化フォーラムでは2011年より「まちげき」（まちは劇場）を開催しています。目的は、「たくさんの人に舞台芸術や劇場空間の魅力を伝えること」。「まちなかに舞台芸術の鑑賞や体験による人々の交流の場をつくること」。今年も福井市中心市街地エリアを舞台に、さまざまなパフォーマンスの上演やワークショップを行います。まちげきは、パフォーマーとお客様とフォーラムでつくる街遊び。――街で遊ぼう、街を遊ぼう。

源さんと富さんの「プレまちげき」報告

おいおい、9月21、22、23日に「まちげき」ってのがあるの知ってるか。

なんだ、それ？

福井芸術・文化フォーラムが去年からやってるんだ。空き店舗やフリースペースを使って、芝居や落語、大道芸に音楽など、いろんなジャンルの舞台芸術を街の中でやっちゃおうという催しなんだそうだ。

なんかおもしろそうだな。今流行の「まちコン」に似てるな。

「まちコン」は独身の大人だけしか参加できないけどな、「まちげき」は、子どもから大人まで、誰でも参加できるし、観に行くだけではなくてスタッフとして参加できるんだ。

そうなのか。でもスタッフは誰でもなれるわけじゃないだろ。

街を盛り上げたいと思っている人なら誰でもいいそうだ。

へえー。

それでよ、7月22日に「プレまちげき」ってのがサンロード北の庄入口の「戦国の館」ってとこであって観に行ったのよ。

で、どうだった。

それがよ、そこは店舗の２階で空きスペースなんだけどよ。まるで劇場空間のようになっててびっくりしたよ。空いたスペースでもあんな風にすれば立派な劇場だよ。

で何やったんだよ。

加賀の「パペットリーメッセンジャー」の人形劇と、金沢のアートユニット「いまるまる」のコンテンポラリーダンス。二つともその空間にぴったりあってておもしろかったー。子どもから大人までお客さんがいたけどみんな楽しんでたよ。コンテンポラリーダンスは子どもには難しいかと思ったけど目を丸くして楽しんでたよ。

俺も行きゃーよかったな。

9月にはもっとたくさんのパフォーマンスがあるぜ。「いまるまる」は、今度は電車の中でパフォーマンスしてくれるそうだ。

えっ、電車の中。いったいどんなダンスをするんだ。

観に行きたくなったか。

ああ。想像すると、なんか楽しみ。

俺はスタッフとして参加しようと思っている。そん時は案内してやるぜ。

「まちげき」だな。よし行くぞ。

◎詳しいタイムテーブルは、webやパンフレットでご確認ください。

レッツ☆狂言 with 三宅兄弟

2012年
6月17日（日）　入門編「狂言入門」
　　実践編「茸（くさびら）を演じるワークショップ」
6月24日（日）　実践編「越前和紙でお面をつくるワークショップ」
7月16日（月・祝）　鑑賞編「狂言鑑賞会」

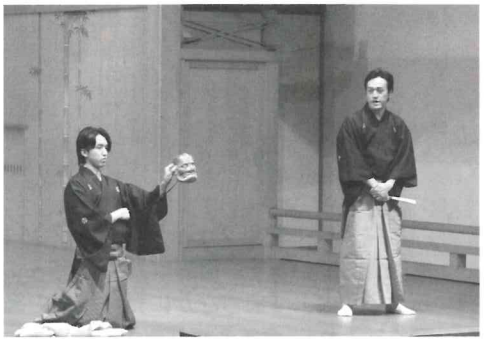
学んで、演って、つくって、観てみる

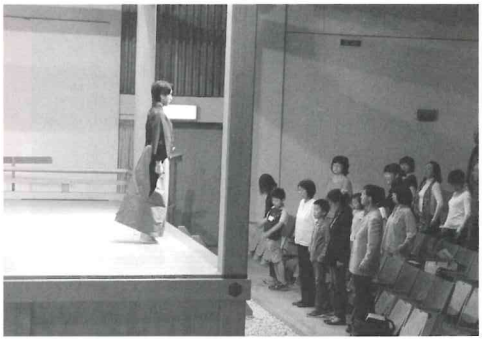
レッツ☆狂言とは…

「入門」「実践」「鑑賞」という３つの切り口で狂言に触れてもらおうという催し。「敷居が高くて、とっつきにくい」と思われがちな狂言を、いかに楽しく学んでもらえるかに焦点をあて、レクチャーから実践ワークショップ、鑑賞と、様々なアプローチで狂言の魅力を伝えました。

入門編

ワンコインで狂言の“いろは”を学ぶ


狂言で使われる面（おもて）の説明をする三宅兄弟。


狂言の所作を体験してみます。まずは基本姿勢から。

実践編

演じるには体力が必要…キノコ役を演じる

しゃがむ動作がメインのキノコ役。
三宅先生のお手本を真似して…

しゃがみ歩きは、想像以上のキツさ。
それでも懸命にがんばります。

越前和紙でキノコのお面をつくる

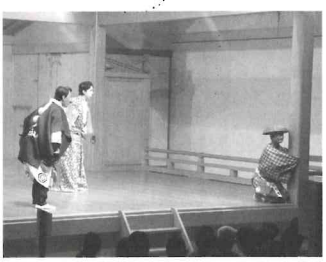
越前和紙を扱うのは皆さん初めて。
夢中になって作業をされていました。

工作？はウン十年ぶり？

鑑賞編

解説付きで初めての方でも安心

プログラム
一、狂言解説
二、棒縛（ぼうしばり）
三、ワークショップ
四、茸（くさびら）
※プロと市民が共演



ワークショップ参加者から

レッツ★狂言を終えて

軽妙なチラシに誘われ初挑戦！体験会後素敵な三宅一門の指導を受けて気分は俄か狂言師。翌日の未経験ゾーンの筋肉痛に今昔日本人の所作の違いを実感しつつ、独特の台詞回しに馴染んでいるDNAの不思議やこれ如何に。

小道具の面と帽子を作り始めて閃いたのが、歌劇「魔笛」の「夜の女王のアリア」。珍妙で毒々しい茸が『私は夜の女王よ！』と傲然と月に向かって歌えば…役の茸と私の想像力（妄想？）がコラボし被り物が完成。装束と被り物で奇妙奇天烈な茸に変身し、いざ、能舞台へ！難しい所作と猛暑の中、一期一会の舞台が終りました。

役者が名乗り、ここは何処と言えばその世界が成立する狂言。それを支えたのはいにしえの人の想像力ではなかったかしら（負けていないか現代人）。茸の姿で見た星空が瞼に残り、今もどこかのお屋敷で怪しい茸がびっしりと生えているような。心が柔らかい子供達にこそ触れて欲しい舞台であり体験でした。

三宅一門の皆様、スタッフの皆様に心より感謝申し上げます。

（H.T ／女性）

最近、能や狂言に興味を持っています。私の故郷は池田町ですが昔から能が盛んでした。その影響もあってか能が大好きです。昨年名古屋の能楽堂に鑑賞に行きましたが、能はテンポも遅く、上演前に内容を頭に入れて置かないと、まったくストーリーが判りませんでした。次に狂言を鑑賞しましたが、仮面をつけないので、演技者の強烈な個性と話術のすばらしさに驚嘆しました。それからテレビで狂言の番組を見るようになりました。ちょうどその折、今回の企画が発表となり応募したわけです。女性の方が多く参加されていたのも、正直驚きました。皆で和紙のお面作りや練習も楽しかったです。何よりも嬉しかったのは狂言の装束が着れたことです。後で関係者の方から、衣装は貴重なもので、普段は誰でも触る事ができないほど貴重なものだと教えてもらい感激しました。今回は自分にはちょっときつかったですが、チャンスがあれば次も、もちろん参加します。最後にスタッフの皆さん有難うございました。

（Y.M ／男性）

私が狂言を見るきっかけは大学の授業でした。古典芸能を学ぶ共通教育の授業で「棒縛」を見ました。はじめは全く分かりませんでしたが、よくよく見ていると とても滑稽で何だか目が離せません。なにこれ、このじわじわくる笑い。――いつの間にか、狂言を見て楽しむ自分がいました。それから狂言にはまり、一時期は年に何度か能楽堂へ足を運ぶこともありました。それからしばらく社会人になり、忙しさにかまけて狂言からは離れていたある日のこと。何か面白いことはないかと市役所の広報誌を眺めていました。そこで見つけた狂言ワークショップの記事。福井で狂言のワークショップ!? これは行くしかないっ！いつの間にか、ワークショップに申し込んでいたのでした。

今回のワークショップでは、狂言師の方に狂言の魅力が学べることは勿論のこと、能舞台の裏側を見ることもでき、演目の要となる茸のお面や笠を自分で作ることもポイントが高かったです。そして何と言っても狂言を演じることでしょう。能舞台に立って茸の一味を演じるのは恥ずかしいと思いましたが、まぁ、お面もかぶっていることだし…と甘い期待をしていた自分が甘かったです。姿勢良くしゃがみながら歩くのは、正直苦行のようでした。しかしながら、このような機会を福井で体験できたことが大変嬉しく、また狂言をじっくり見ていきたいなと思いました。三宅狂言会のみなさま、文化フォーラムのみなさま、ありがとうございました。

（T.T ／女性）

企画担当者から

荒川 裕子

「レッツ☆狂言」は、「実践編」がこの企画の軸です。ワークショップでお稽古・お面づくりをし、成果を披露する鑑賞会という流れは最初にできました。ただ、「狂言」といっても馴染みのない方がほとんど。「狂言」を学ぶ場ができないか・・・ということで、入門講座も盛り込みました。入門から実践、実践から鑑賞という流れができ、この３つの柱で成り立つ企画が「レッツ☆狂言」になりました。

「狂言」は世代を超えて楽しめるものです。当フォーラムでも様々な催しをしていますが、子どもから大人まで同じ空間で楽しめるものは、そう多くはありません。今回は、小学生から年配の方まで、幅広い世代の方に来場いただきました。ただ、一つ残念だったことは、実践ワークショップにお子さんの参加がなかったこと。ここは反省点として、次回への課題としていきます。

最後に、三宅兄弟は若くルックスも満点のイケメン狂言師です。今回、ご来場いただけなかった皆さま、次回はぜひ、このプリンスを間近に観に来てください！

「越前和紙でお面をつくるワークショップ」 講師 鈴木 淳子

今回越前和紙で面（おもて）づくりを取り入れよう！というフォーラム荒川さんのお話を聞いて、直感的に「これはおもしろくなりそう！」と思ったと同時に、なんだか福井から発信する新しいスタートになるような気がしました。私は「伝統」や「文化」とは、昔からある存在価値を守っていったり、鑑賞したり、理解したりするものだと思っていました。先日ラジオを聞いていた時、ある歌手の人が「伝統とは常に変化していくものも含めて伝統になっていく」と言っていました。なるほど！☆

市民参加型の公演、さらに福井を象徴する「越前和紙」で自分の面をつくり着用して舞台に立つという企画。愉快でコミカルな演技と面が、参加された方々に大きな「存在」を与えます。もちろん、狂言の奥深さを知る入門編も魅力的でしたが、今回はそんな「存在」を意識した新しい伝統文化をつくっているような企画でした。

出演された方々、企画された関係者の方々お疲れさまでした。

7月、8月は野外オペラが盛ん

―スイス・イタリア旅行より―

（一般社団法人）日本経営士会　近畿支部幹事　山下 博

7月2日から18日までスイス、イタリア、ヴァチカン市国及び、カタール（トランジット）を訪れた。目的の一つに、各国の舞台芸術事情（広義）調査を据えた。5年前のドイツ、オーストリア旅行記も本誌に執筆した（県立音楽堂で翌年開催の「イタリアオペラ歌曲コンサート」会場で旧知のK社長に謹呈・意見交換）。が、その後の欧州債務危機が行政による文化芸術面の補助金削減に向い、各地歌劇場などの運営に影響を与える一方で、意欲的なプログラム改変、キメ細かな公聴・アウトリーチ活動が取り組まれていると聞いていたからだ。

世界の2大オペラ殿堂（イタリアオペラの最高峰）とされるミラノのスカラ座での現況などの同問題や、今次旅行で追加し得た形となったアルプス山地各都市での夏季音楽祭事情については別の機会に触れることとする。

ところで、ローマで2泊したホテルは、同国の3大歌劇場（ナポリのサン・カルロ歌劇場も）とされるローマ・オペラ座の右側面の道路を挟んだ間近だった。毎年11月から6月まではオペラやバレエ、コンサートが上演され、後2者はオペラのほぼ半額。シルバー割引があったり、当日券も入手しやすくしている。休館は織り込み済みで、同じローマ市庁が管理運営している、カラカラ浴場跡（古代ローマ建築による市民の一大娯楽センターだったが歴史の流れの中で廃墟となり土に覆われた場所・時期もあった）を訪れた。当日昼間も、7月と8月限定で行われる野外オペラの舞台設営が行われていた。

ローマのカラカラ浴場跡にて

舞台の裏から 8

株式会社影向舎　根本 和博

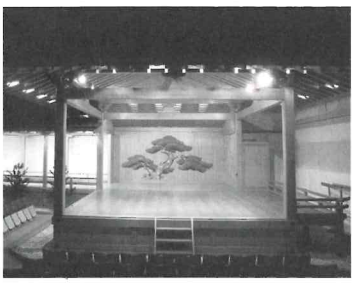
先頃、福井能楽堂に於いて行われました、市民参加狂言「茸（くさびら）」の裏方を務めさせて頂きました。

福井市民福祉会館の4階に佇む、静かで美しい能楽堂の舞台背景にも描かれている老松…通称「影向（ようごう）の松」。これを描いた板を称して「鏡板」と云うそうです。

「影向」とは「神さまがお姿を現す事」で、松の木は神様が腰を下ろすところ…即ち、本当は客席側に松が生えていて、そこにお掛けになっている神様に、芸を披露しご覧頂く建前でございます、が…しかしそれでは人間のお客様がお芝居を見る事ができません…目に見えない神様は兎も角、目に見える「御足」を頂くのはお客さまからですもの、ね（笑）

そこで…演者はあくまでも「松に向かって」演じているつもり、ほら。舞台の後ろにある「鏡」に松の木が映っていますでしょ…神様に失礼がなく、人間のお客様からも堂々と「御足」が頂ける、と云う悪知恵（笑）

そんな舞台で演じられる狂言が、楽しくない筈がありません。何処かでご覧になって頂ければお判り頂けると信じております。



編　集　後　記

■街はちょっと手を加えれば非日常の空間になります。レッツ・まちげき！（K･M）

■県立大学が20周年を迎えた。前身の県立短期大学は昭和50年4月開学で、1年目からレコード鑑賞部があって依頼されて顧問を務めていた。先日も創部時メンバーのN君（他学科だったが卒業後も接触あり）の活躍記事が写真入りで地元紙に掲載されているのを拝見して嬉しくなった。（H･Y）

福井芸術・文化フォーラムの活動を応援しています（2012年度法人賛助会員）

北陸労働金庫
財団法人 福井県予防医学協会
ホテルリバージュアケボノ
エースイン福井

発行・お問い合わせ

NPO法人
福井芸術・文化フォーラム

〒910-0019　福井市春山2-7-1　福井市文化会館内
TEL 0776-23-6905　FAX 0776-23-7905　開所時間 月～金 10:00～18:00／土日祝 休
E-mail geibun@geibun.info　◎公演・催し物の最新情報はwebでチェック　http://geibun.info/

■福井芸術・文化フォーラムはどなたでも参加できる市民の団体です。
■ご意見・ご感想・ご要望など、メールまたはFAXでフォーラムまでお気軽にお寄せください。

2012年9月10日発行（年4回発行）　通巻39号